

◇ 令和6年度 指定管理者事業評価書

施設名	渋川まちづくりセンター			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	まちづくり協働部	まちづくり協働課	初年度	24,304,127円		23,417,029円	(令和2年度)事業収益をセンター事業や施設維持管理に還元し、効果的な予算執行が出来た。	第1期での反省点や改善点を振り返り、センターがより利用しやすい運営管理が可能となるようルールなどの見直しを行います。
施設HPアドレス	http://www.machikyou.jp/shibukawa		2年目	24,744,000円		23,610,373円	(令和3年度)事業収益をセンター事業や施設維持管理に還元し、効果的な予算執行が出来た。	運営管理の見直しを継続して行い、施設の運営や事業の実施において、さらに参画を広げていきます。
指定管理者名	渋川学区まちづくり協議会		3年目	25,871,179円		24,676,756円	(令和4年度)水道光熱費のうち、特に電気料金の値上がりにより昨年度同月と比較して700千円の増加。複合施設であるため負担が大きい。	複合施設であるため、高齢者に加えて障がいのある人への対応も多い。職員全員が経験を積みながら多くの利用者に対応していきたい。
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日		4年目	23,661,875円		23,429,277円	(令和5年度)適切な施設維持管理および事業の計画通りの実施によって、適正な予算運用を図ることができたが、指定管理導入前に市から提示のあった基準価格の内訳からは実態が大きく変化している。	運営ガイドラインに則り運営していく。コロナ禍明けでセンター全体の来訪者が増え、2F3Fの他施設来訪者の対応も多い。職員全員が経験を積みながら多くの利用者に対応していきたい。
評価対象期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		5年目	23,776,934円		23,752,716円	(令和6年度)事業収益をセンター事業や施設維持管理に還元し、適正な予算執行が出来た。	運営ガイドラインに則り運営していく。複合施設の為、他施設来訪者の対応も多い。職員全員が経験を積みながら多くの利用者に対応していきたい。

●総合評価の基準			○その他の項目	
5	☆☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆☆である	公募・非公募の別	非公募
4	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である	使用料・利用料金制の別	使用料
3	☆☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆☆である	指定管理者による運営開始日	平成29年4月1日
2	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である	施設の供用開始日	平成29年4月1日
1	☆	評価基準に☆が1以上ある	指定管理導入前の運営形態	供用開始と同時に指定管理者制度を導入

◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆☆
年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入) 草津市立地域まちづくりセンター条例第3条に掲げる事業について、計画および実施する際には、地域の特色・ニーズに沿った事業展開が行えるよう創意工夫を図る。また、渋川まちづくりセンターにおいて、利用者が安全・安心して利用できるよう施設の管理運営に努め、貸館件数や利用者数の増加を図る。		事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入) 地域や施設の特色に合わせた事業展開を行うことで地域住民の交流の拠点として適正な管理運営に努められた。 他のまちづくりセンターとは異なり、複合施設が故の業務等はあるものの、そうした中でも趣向を凝らした企画や新たな取組を実施いただいた。 今後、利用者サービス向上のため、さらなる発展に期待したい。	
事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入) 草津市立地域まちづくりセンター条例第3条に掲げる事業について、計画および実施する際には、地域の特色・ニーズに沿った事業展開が行えるよう創意工夫を図った。また、事業ごとに参加者からアンケートを取り、次回の事業時の参考とした。今年度の貸館利用者数、稼働率はほぼ昨年並みであった。地域情報誌は当初予定どおり年間7回発行し、ホームページの更新も迅速に適時行った。広報くさつやまめバスの時刻表、ごみカレンダーなどを取りに来られる市民は引き続き多く、在庫を切らさないよう注意した。施設維持管理においては、法定点検等計画どおりに実施したが、年度後半は老朽化に伴う故障の対応に追われた。また、障害者福祉センターが同じ建物内に設置されていることから、障害のある利用者からの要望にも丁寧に対応し、複合施設特有の業務にも柔軟に対処した。職員の入替わりが1名で、昨年度と比較して円滑な運営ができ、1月に実施した利用者アンケート(昨年と全く同形式、同質問項目)では、9項目全てで昨年以上の高評価の結果となった。		公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証 (応募状況等(非公募の場合は、非公募理由等)) 地域の活動拠点である地域まちづくりセンターを中心として、地域における関係諸団体と連携し、地域住民とともに地域のまちづくりを包括しているまちづくり協議会が知見と経験を活かし、発展的に管理・運営ができるのは現指定管理者以外にはなく、非公募による選定とした。 (利用者数の状況等) 地域住民を対象とした公的な役割が大きく、市場原理に左右されることは望ましくないことから、使用料制としているが、利用者数の増加を目指し、地域の活動拠点等として利用していただけよう努めていただいた。	

◇施設に係る主な指定管理業務		◆評価基準	
・地域まちづくりセンターの運営および維持管理に関すること。 ・草津市立地域まちづくりセンター条例第1条の設置目的を達成するための事業の実施に関すること。		☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
		☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
		☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
		☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
		☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

施設の管理運営に関する業務			
評価項目1	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	貸室の受付業務については、適正に対応できた。自主教室については、昨年同数の20を維持できている。貸館件数は、昨対93.6%(873件⇒817件)、人数は98.6%(9,738人⇒9,599人▲139人)、共に減少となった。部屋別では、調理室が大幅に減少(355人⇒209人▲146人58.9%、関連団体事業の一部中止)、大会議室も減少(6,036人⇒5,855人▲181人97.0%、2有料団体利用中止)している。全体としては、計画範囲内の進捗である。	上半期評価
	☆☆☆		☆☆☆
	下半期評価	貸室の受付業務については、適正に対応できた。貸館件数は昨対105.0%、利用者数は103.9%となった。年次の部屋別では、調理室が大幅に減少(1,028人⇒659人▲369人64.1%)、他の部屋は全て利用者数増であった。大会議室(+282人 102.5% 稼働率81.1%)、小会議室1(+731人 119.9% 稼働率43.8%)、小会議室2(+807人 104.9% 稼働率31.5%)、和室(+345人 123.4% 稼働率25.9%)、大会議室以外の稼働率アップが今後の課題である。年度末に使用許可制限抵触の疑義案件が発生した。今後は初めての利用申請時に使用許可制限に抵触しない旨の誓約書提出を義務付けることを提案したい。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆

施設および備品の維持管理等			
評価項目2	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	設備機器の法定点検等、保守点検業務は計画通り実施出来た。清掃業務は、日々の清掃、夏季大掃除(6/1)等実施した。消防訓練も8/19実施し、訓練の後、市の危機管理課から出前講座を実施いただいた。清掃業務、消防訓練とも2F3Fの協力参加で全館業務として行った。2F障害福祉センター主催の防犯講座(草津警察署から4名来られ、差す又を使った実践訓練)にも参加した。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆
	下半期評価	保守管理業務については、年間を通じて法定点検・保守点検を計画どおりに実施したが、施設老朽化に伴う不具合が年度後半から連続して発生した。①加圧給水ポンプ3号機故障(絶縁不良・要ポンプ交換)②ゴミ集積所(年度明け4/5交換設置)③正面玄関自動ドア(エンジンコントローラー経年劣化・要交換)④テレビアンテナ不良⑤スプリンクラーポンプ誤作動、以上に加え、物置の移設(扉向きの変更)、防火対策が求められている。市と情報共有し、指示を仰ぎながら対応を行った。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆

センター条例第3条に掲げる事業の実施に関する業務			
評価項目3	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	地域の各種団体に必要な支援を行った。また市民からの相談に対しては行政等につないだ。地域情報誌を計画通り発行し、ホームページの更新を徹底し、情報の発信・周知に努めた。センター講座は歴史講座、人権講座、防災講座を行った。人権講座は落語を取り入れて趣向を凝らした講座で参加者にも非常に好評であった。防災講座は東日本大震災で被災され、県内に移住されて来られた方の実体験を語っていただき、季節柄関心が高いテーマでもあり、好評であった。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆
	下半期評価	センター講座は上半期3回、下半期1回の計4回(昨年同数)開催した。下半期には「アンサンブルコンサート」を実施し、アマチュアオーケストラによる交響曲や協奏曲などのクラシック曲演奏を鑑賞した。幅広い年代のクラシックに接することの少ない方々も多く参加され、文化講座として学びの場を提供できた。また、初めての試みとしてペット写真展を開催し、普段センターに来られない方々も多く来場された。加えて、会場には滋賀県動物保護管理センターの案内パンフレットを設置し、動物愛護の啓発にも努めた。年間を通じて講座のマンネリ化防止に努め、昨年とはひと味違う内容で好評であった。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆

組織の管理運営および提出物等にかかる業務			
評価項目4	指定管理者の自己評価		市(施設所管課)の評価
	上半期評価	1名の退職者があったが、概ね円滑な業務遂行が出来た。(昨年1名の退職、2週間の空白期間、今年は空白期間なし)提出書類についても遅延することなく、作成することができた。昨年同様、人権講座や第三講座などに担当以外の職員も参加し、人権意識の高揚に努めた。光熱費節減に努め(¥1,703,969⇒¥1,591,470▲¥112,499、昨対93.4%)、予算進捗44.2%で推移している。夜間管理についてもまち協事業のみの夜間使用の場合は自主管理とし、昨年より26時間分の管理費用を削減した。その他の経費に関しても適正に予算執行した。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆
	下半期評価	職員の入退職もなく、円滑にセンター業務の運営ができ、提出書類についても遅延することなく提出することができた。研修については、市社協主催の防災研修出席や危機管理課の出前講座開催など防災知識の研鑽に努めた。冬季にセンター内での急病人が相次いだ(3件)が、冷静な対応が出来、いずれも大事に至らなかった。指定管理料に関しては経費節減に努め、年次で昨対99.1%(水道光熱費も昨対99.0%)に抑えることができ、適正に予算執行することができた。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆